

英語スタンダード

「英語スタンダード」とは、英語スタンダードとは、コミュニケーション能力の向上を図るうえで、確かに身に付けさせたい内容を示したものです。

(小学校・中学校・義務教育学校 共通)

- ☐ 英語で積極的にコミュニケーションをとります

(小学校・義務教育学校前期課程)

- ☐ 英語であいさつや自己紹介をします
- ☐ 英語でやりとりをします
- ☐ 英語で将来の夢を話します
- ☐ 英語で自分の名前を書きます



(中学校・義務教育学校後期課程)

- ☐ 英語であいさつや自己紹介ができます
- ☐ 英語でやりとりができます
- ☐ 英語で自分の学校を紹介できます
- ☐ 英語で身近なできごとや自分の考えを伝えることができます
- ☐ 英語で書かれた案内文を読み、その内容を理解できます
- ☐ 英語で江東区について伝えることができます



英語スタンダード

新学習指導要領全面実施に向けた英語科について

外国語活動・外国語科における見方・考え方とは

外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。

指導資料改訂のポイント

社会のグローバル化が急速に進展する中で、国際人としていかに社会で生きる力を身に付けるか課題となる。その対応として、4技能を統合的・総合的に育成することによりコミュニケーション能力を育成すること、小・中・高等学校連携による、一貫した英語教育の充実が求められる。そのため、新学習指導要領では、新たに設定された小学校3・4年生では、「聞くこと」、「話すこと」のを中心とした活動を通して、外国語に慣れ親しませ、外国語を用いたコミュニケーションを図る素地を育成することを一義的にしている。5・6年生では、中学年の外国語活動で十分に音声に慣れ親しんだ語句や基本的表現について読んだり書いたりすることに段階を踏んで慣れ親しませることとなっている。また、中学校の英語では、小学校での英語でのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を基盤に、互いの考えや気持ちなどを伝え合う主体的で対話的な言語活動の一層の充実を図ることが明記された。

これらを「主体的・対話的で深い学び」に結びつけた授業改善を図りながら実践していくため、以下の視点から指導資料の改訂を図る。

- 1 新学習指導要領に則り、英語スタンダードの改訂を実施し、「新・英語スタンダード」を設定する。
- 2 主体的・対話的な言語活動を多く取り入れ、児童・生徒一人一人のコミュニケーション能力の育成を図る。
- 3 4技能5領域を統合的・総合的に展開、育成する指導内容にする。
- 4 特に、小学校教員が授業を展開しやすい指導資料にする。

英語スタンダード達成のためのポイント

英語スタンダード達成のためのポイントは以下のとおりであり、この内容に基づいて指導資料を作成した。また、英語を使って外国人とコミュニケーションが取れるようになることを目的とし、下のStep1～3を基本的な指導手順と考える。

- 1 英語への関心・意欲の向上を図るため、英語に慣れ親しむための教材を研究・活用する。
- 2 4技能5領域を統合的に展開し、具体的な場면을想定した言語活動を積極的に多用するなど、ペアワークやグループワーク、個別に発表する機会を多く取り入れる。
- 3 外国人講師と個別に対話する時間を多く取る。また、SD強化講師の活用を図るなど、個別指導の充実を進める。

☆Step1『なれる』 児童・生徒が英語に 慣れる機会の充実



具体的には…

- ・外国人講師の効果的な活用
- ・言語活動の充実
- ・授業はできるだけ英語で実施等

☆Step2『まなぶ』 児童・生徒が主体的に 学ぶ授業の充実



具体的には…

- ・教員研修の充実
- ・児童生徒同士の学び合い
- ・実際の場면을想定した言語活動の充実等

☆Step3『つかう』 児童・生徒が学んだ英語を 使う機会の充実



具体的には…

- ・校外（遠足、修学旅行等）で外国人へのインタビュー
- ・パフォーマンス等の実施
- ・TGGの活用等

1 単位時間の表現活動に関する授業の展開例とポイント

学習過程	主な展開例	ここがポイント！
前時の振り返り 本時の見通し導入	・前時の復習として、児童・生徒に質問形式で振り返りを行う。 ・語彙を増やしたり、音に親しんだりする活動を行う。 ・新出事項について、教師のオーラル・イントロダクションを聞く。 ・本時のねらいを確認する。	○児童・生徒が理解できているか必ず質問して確認する。 ○本時のねらいは消さずに黒板に残しておく。
展開	・モデル文の提示 ・個人活動：各自で英文を作成する。 ・グループ活動：発表し合い、自分の課題を発見する。 ・全体発表・より多くの発表を聞いて、参考にする。	○机間指導をこまめに行う。 ○個人→集団→全体→個の学習過程を通して、自分の理解度・習熟度を確認させる。
まとめ	・本時の振り返り	○ねらいに対する振り返りをさせる。

スタンダード各項目の指導上のポイント

○英語で積極的にコミュニケーションをとります (小中共通)

- ・ペアワークやグループワークを多く取り入れ、積極的にコミュニケーションをとらせる。

○英語であいさつや自己紹介をします[ができます] (小、[]内は中学校)

- ・授業の最初と最後に大きな声であいさつさせる。
- ・学習した内容を取り入れながら、習熟度に応じて自己紹介させる。

○英語で自分の名前を書きます。(小)

- ・アルファベットでヘボン式で書くように指導する。

○英語で将来の夢を話します(小)

- ・将来の夢などについて簡単な理由も含めて話すようにさせる。

○英語でやりとりをします[ができます] (小、[]内は中学校)

- ・あいさつや単なる会話だけでなく、自分の考えや思いなどを伝え合わせる。

○英語で自分の学校を紹介できます(中)

- ・自分の学校の特徴を紹介させる。

○英語で書かれた案内文を読み、その内容を理解できます(中)

- ・ホームページ等を見て、案内文に慣れさせる。

○英語で身近なできごとや自分の考えを伝えることができます(中)

- ・「出来事」と「その感想・気持ち」を含む、まとまりのある内容の英文を発表させる。

○英語で江東区について伝えることができます(中)

- ・事前に江東区、または地元について調べ学習をさせる。